2013
（平成25年）
1月
January

No. 707 Contents 目次

新年のあいさつ…… 2
特集 今年も地域から元気を発信！…… 4
インフォメーション伊万里…… 8
みんなの広場…… 10
教育と文化…… 11
ほがらかページ…… 12
スポーツ…… 14
くらしのチャンネル…… 16
イルミネーション点灯式…… 20

今月のフォト

あけましておめでとうございます。2013年（平成25年）がスタートしました。今年は『巳』年。今号の表紙は、昨年の『広報伊万里』を飾った皆さんの笑顔で干支の文字『巳』を表してみました。どうか今年も市民の皆さんの素晴らしい笑顔に会えますように！

この冊子は1部当たり約25円で作成しています。（人件費など間接経費は含まれていません）
また、企業広告による掲載料は、広報伊万里の作成費の貴重な財源となっています。

未来に向け発展するまちづくりのために

あけましておめでとうございます。市民の皆様におかれましては希望に満ちた新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、国土の領有権に関する問題をはじめ、原子力災害への対応や我が国のエネルギー政策のあり方など、安全と安心の確保への関心が高まった一年となりました。

伊万里市では、防災への備えとして、新たに防災危機管理室を設置し市では初めてとなる原子力防災訓練を独自に実施したほか、電力会社に対し原子炉施設の変更等の事前了解などを求める立地自治体並みの安全協定の締結について強く働きかけを行いました。

また、国においては原子力災害対策重点区域の目安として原子力施設の半径30キロ圏への拡大が示されましたが、伊万里市では、国に先駆け、効果的で効率的な防災対策を重点的に充実すべき地域の範囲として市内全域を位置付けました。

市長就任以来、政策の柱に掲げてきた中核的病院の整備については、3月に伊万里有田共立病院を開院することができ、内科や外科をはじめ脳神経外科や小児科など19の診療科を備え、市民の生命と健康を守り地域医療を担う病院として利用されています。また、休日・夜間急患医療センターを新築移転し診療を開始するなど、安心で健やかな暮らしづくりに大きな成果を収めることができました。

さらに、上水道の第9次拡張事業が完了し、井手口川ダムを水源に新たに整備した浄水場から水道水の供給を開始したほか、給水区域の拡張を進め未普及地域の解消を図りました。

ひとづくりへの取り組みとしては、交流の拡大のため中国大連市との友好交流25周年を記念して市民訪問団を大連市へ派遣し、また、地域づくりのリーダー育成のため農山漁村の資源を生かしたまちづくりをテーマとした海外研修を10年振りに実施しました。

平成25年 年頭のごあいさつ

伊万里市長　塚部 芳和

本年は、これまで市民の皆様と力を合わせて結実した成果をもとに、未来に向け大きく発展する伊万里市づくりに取り組んでまいります。

日本海側における国際コンテナ物流の拠点港として位置付けられた伊万里港については、七ツ島地区において念願の水深13メートル岸壁とガントリークレーンの整備が完了することから、海外との貿易拡大や経済活動の拠点としての機能向上をめざします。

また、福岡都市圏への移動時間を大きく短縮する西九州自動車道の唐津伊万里道路が本年、北波多インターチェンジまで開通する予定であり、引き続き平成26年度の市内への延伸に向け事業を促進するとともに、市民会館から国道204号バイパスまでの都市計画道路大坪木須線の早期整備を促進し市街地における交通の円滑化を図ります。

県西部地区4市5町により建設を行う広域ごみ処理施設については、松浦町広域ごみ処理施設建設対策協議会と建設に関する協定を締結しましたので、平成27年度の完成に向け着実な事業の推進を図ります。また、地域において問題となっている老朽化した空き家への対策として、撤去を含めた適切な対応を行うなど、快適な生活環境づくりを進めます。

さらに、昨年を伊万里市の観光元年として取り組んでいる観光振興については、福岡都市圏などからの交流人口の一層の増大に向け、鍋島の伝統を受け継ぐ伊万里焼や高い評価を受ける伊万里牛など全国的に知られる伊万里ブランドを活用し効果的な観光戦略を展開します。

これからのまちづくりにおいては、地方の実情に応じたきめ細かな行政サービスが求められることから、私はこの1月から、市民の皆様と直接お会いし、まちづくりに関する考えなどを聞かせていただく『市長出前まちづくり座談会』を各町公民館で開催するなど、市民と行政の協働を積極的に進め、『活力あふれ　ひとが輝く　安らぎのまち　伊万里』の実現に向け全力を傾注してまいりますので、市民の皆様のなお一層のご協力をお願いします。